

## 心理学部を卒業した方で公認心理師試験の受験を考えている方へ

平成 29 (2017) 年 9 月 14 日以前に心理学部臨床心理学科を卒業した方で、公認心理師法附則第 2 条第 1 項第 3 号 (いわゆる E ルート) および第 4 号 (いわゆる F ルート) における「受験資格の特例」の適用を受けて公認心理師試験の受験資格を得るためには、指定された科目を卒業までに取得していることが最低限、必要となります。そこで受験資格を満たすか否かの判断基準となる科目の「読替対応科目表」を、心理学部 HP に公開しましたのでご確認ください。なお、最終的な受験資格の有無は、受験申込の際に判断されることとなりますので、ご注意ください。厚生労働省のホームページの「6. よくある御質問」など関連情報もご参照ください。

(参考リンク : <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>)

※個人情報に関わることなので、電話による対応はご遠慮いただいております。

### [読替対応科目表について]

1. 次ページに掲載の「読替対応科目表」をご覧ください。在学当時のシラバスに合致した名称の科目が、I～Vの区分に分類されています。

(読み替え表は、随時バージョンアップする可能性があります。ご注意ください。)

2. 成績証明書等の履修状況が判る資料をご用意ください。お手元に確認できる資料が無い方は、立正大学学事課で成績証明書を入手してください。遠方にお住まいの方は郵送でも取り寄せが可能です。ただし、即日の発行とはなりませんのでご注意ください。下記のリンクを参照してください。

[http://www.ris.ac.jp/campus\\_life/student\\_life/Certificate\\_issue\\_procedure/graduate.html](http://www.ris.ac.jp/campus_life/student_life/Certificate_issue_procedure/graduate.html)

3. 読み替え表の区分と、必要科目数があることをご理解ください。

I～Vの区分があり、指定された科目数が充足されているかどうかを確認します。

区分Ⅰ (2～6) から3科目以上、

区分Ⅱ (7～13) から4科目以上、

区分Ⅲ (14, 15, 24, 25) から2科目以上、

区分Ⅳ (16～20) から2科目以上、

区分Ⅴ (21, 22) から1科目以上、の履修が必要です。

※同じ番号の中から2科目以上は読み替えできません。

例. 4 : 心理学研究法として、心理学研究法Ⅰ, 臨床心理学研究法Ⅱ, など。

※16 : 健康・医療心理学の科目は、区分Ⅴの科目として読み替えることができます。

(その場合、16の科目は、いずれも区分Ⅳの科目として読み替えできません。)

4. 対応をご自分で確認した上で、ご自身で受験資格があるか否か判断できない場合は、以上の準備をした上で心理学部事務室にお越しください。

公認心理師「受験資格の特例」に関する読替対応科目表

(臨床心理学科2002年度入学生～2013年度入学生)

2017/11/07現在

受験資格の特例の区分	番号	必要な科目	2012・2013年度入学生	2011年度入学生	2010年度以前入学生	備考
	1	公認心理師の職責				履修不要
< I > 2-6の科目から、3科目以上	2	心理学概論	心理学概論	心理学概論	心理学概論	
	3	臨床心理学概論	臨床心理学概論1 臨床心理学概論2	臨床心理学概論1 臨床心理学概論2	臨床心理学概論1 臨床心理学概論2	
	4	心理学研究法	心理学研究法1  心理学研究法2  臨床心理学研究法1 臨床心理学研究法2	心理学研究法1  心理学研究法2  臨床心理学研究法1 臨床心理学研究法2	対人心理学研究1 社会心理学研究1 対人心理学研究2 社会心理学研究2 臨床心理学研究1 臨床心理学研究2 教育心理学研究1 教育心理学研究2 行動心理学研究1 行動心理学研究2	
	5	心理学統計法	心理統計法1 心理統計法2	心理統計法1 心理統計法2	心理統計法1 心理統計法2	
	6	心理学実験	心理学基礎実験1 心理学基礎実験2	心理学基礎実験1 心理学基礎実験2	心理学基礎実験1 心理学基礎実験2 臨床心理学実験1 臨床心理学実験2	
	< II > 7-13の科目から、4科目以上	7	知覚・認知心理学	認知心理学1 感覚・知覚心理学1 感覚・知覚心理学2	認知心理学1 感覚・知覚心理学1 感覚・知覚心理学2	認知心理学1 感覚・知覚心理学1 感覚・知覚心理学2
8		学習・言語心理学	学習の心理学1 認知心理学2	学習の心理学1 認知心理学2	学習の心理1 認知心理学2	
9		感情・人格心理学	人格心理学1	人格心理学1	人格心理学1	
10		神経・生理心理学	生理心理学1 生理心理学2	生理心理学1 生理心理学2	生理心理学1 生理心理学2	
11		社会・集団・家族心理学	社会心理学1 社会心理学2 家族心理学1 家族心理学2 人間関係の心理学1 人間関係の心理学2	社会心理学1 社会心理学2 家族心理学1 家族心理学2 人間関係の心理学1 人間関係の心理学2	社会心理学1 社会心理学2 家族心理学1 家族心理学2 人間関係の心理学1 人間関係の心理学2	
12		発達心理学	発達心理学1 発達心理学2 青年期の心理学 子どもの心理臨床	発達心理学1 発達心理学2 青年心理学 子どもの心理臨床	発達心理学1 発達心理学2 青年心理学	
13		障害者・障害児心理学	障害児心理学1 障害児心理学2	障害児心理学1 障害児心理学2	障害児心理学1 障害児心理学2	
< III > 14, 15, 24, 25の科目から、2科目以上	14	心理的アセスメント	心理学アセスメント1 心理学アセスメント2	心理学アセスメント1 心理学アセスメント2	心理学アセスメント1 心理学アセスメント2	
	15	心理学的支援法	カウンセリング1 カウンセリング2 心理療法1 心理療法2	カウンセリング1 カウンセリング2 心理療法1 心理療法2	カウンセリング1 カウンセリング2 心理療法1 心理療法2	
	24	心理演習	臨床心理学の実践1 臨床心理学の実践2	臨床心理学の実践1 臨床心理学の実践2	臨床心理学実習1 臨床心理学実習2	
	25	心理実習	(対応科目なし)	(対応科目なし)	(対応科目なし)	
< IV > 16-20の科目から、2科目以上	16	健康・医療心理学	ポジティブ・健康心理学 人格心理学2	ポジティブ・健康心理学 人格心理学2	人格心理学2	16はVの区分の科目として読み変えることも可能(その場合、17-20から2科目以上)
	17	福祉心理学	福祉臨床心理学	福祉臨床心理学		
	18	教育・学校心理学	教育相談とスクール・カウンセリング 学習の心理学2 教育の心理学	教育相談とスクール・カウンセリング 学習の心理学2 教育心理学1 教育心理学2	学習の心理2 教育心理学1 教育心理学2	
	19	司法・犯罪心理学	犯罪心理学	犯罪心理学		
< V > 21, 22の科目から、1科目以上	20	産業・組織心理学	産業・組織心理学1 産業・組織心理学2 キャリア・カウンセリング	産業・組織心理学1 産業・組織心理学2 キャリア・カウンセリング	産業・組織心理学1 産業・組織心理学2	
	21	人体の構造と機能及び疾病	心身医学1 心身医学2	心身医学1 心身医学2	心身医学1 心身医学2	
	22	精神疾患とその治療	精神医学1 精神医学2 精神医学診断1 精神医学診断2	精神医学1 精神医学2 精神医学診断1 精神医学診断2	精神医学1 精神医学2 精神医学診断1 精神医学診断2	
	23	関係行政論				履修不要

注 「○科目以上」とは、「必要な科目」欄に対応する科目の数のこと

例 < II > 7-13の科目から、4科目以上

→ ○: 認知心理学、学習の心理学、人格心理学、幼児・児童心理学(7, 8, 9, 12の4科目を充足する)

×: 認知心理学、感覚・知覚心理学、学習の心理学、思考・言語の心理学(7, 8の2科目しか充足しない)

公認心理師「受験資格の特例」に関する読替対応科目表

(臨床心理学科2014年度入学生～2017年度入学生)

2017/10/31現在

受験資格の特例の区分	番号	必要な科目	2015～2017年度入学生	2014年度入学生	備考
< I > 2-6の科目から、3科目以上	1	公認心理師の職責			履修不要
	2	心理学概論	心理学概論 I 心理学概論 II	心理学概論	
	3	臨床心理学概論	臨床心理学概論 I 臨床心理学概論 II	臨床心理学概論1 臨床心理学概論2	
	4	心理学研究法	心理学研究法 I 心理学研究法 II 臨床心理学研究法 I 臨床心理学研究法 II	心理学研究法1 心理学研究法2 臨床心理学研究法1 臨床心理学研究法2	
	5	心理学統計法	心理統計法 I 心理統計法 II	心理統計法1 心理統計法2	
	6	心理学実験	心理学基礎実験 I 心理学基礎実験 II	心理学基礎実験1 心理学基礎実験2	
< II > 7-13の科目から、4科目以上	7	知覚・認知心理学	認知心理学 感覚・知覚心理学	認知心理学 感覚・知覚心理学	
	8	学習・言語心理学	学習の心理学 思考・言語の心理学 行動分析	学習の心理学 思考・言語の心理学	
	9	感情・人格心理学	人格心理学	人格心理学	
	10	神経・生理心理学	神経心理学	神経心理学 生理心理学	
	11	社会・集団・家族心理学	社会心理学 家族心理学 人間関係の心理 対人・社会心理学 グループ・ダイナミクス論	社会心理学1 社会心理学2 家族心理学1 家族心理学2 人間関係の心理学1 人間関係の心理学2	
	12	発達心理学	幼児・児童心理学 生涯発達心理学 青年期の心理学 子どもの心理臨床	幼児・児童心理学 生涯発達心理学 青年期の心理学 子どもの心理臨床	
	13	障害者・障害児心理学	発達障害児・者心理学 障害児・者心理学	障害児心理学1 障害児心理学2	
< III > 14, 15, 24, 25の科目から、2科目以上	14	心理的アセスメント	心理学アセスメント 心理検査実習	心理学アセスメント1 心理学アセスメント2	
	15	心理学的支援法	心理療法 カウンセリング	カウンセリング1 カウンセリング2 心理療法1 心理療法2	
	24	心理演習	心理カウンセリング演習 臨床心理学の実践	臨床心理学の実践1 臨床心理学の実践2	
	25	心理実習	心理臨床・実践領域実習 サービス・ラーニング	(対応科目なし)	
< IV > 16-20の科目から、2科目以上	16	健康・医療心理学	ポジティブ・健康心理学 適応の心理 医療臨床心理学	ポジティブ・健康心理学 適応の心理	16はVの区分の科目として読み変えることも可能(その場合、17-20から2科目以上)
	17	福祉心理学	福祉臨床心理学	福祉臨床心理学	
	18	教育・学校心理学	教育相談とスクール・カウンセリング 動機づけの心理学 教育の心理学	教育相談とスクール・カウンセリング 動機づけの心理学 教育の心理学	
	19	司法・犯罪心理学	犯罪心理学 司法・矯正の心理学	犯罪心理学	
	20	産業・組織心理学	産業・組織心理学 産業カウンセリング キャリア・カウンセリング	産業・組織心理学1 産業・組織心理学2 キャリア・カウンセリング	
< V > 21, 22の科目から、1科目以上	21	人体の構造と機能及び疾病	(対応科目なし)	心身医学1 心身医学2	
	22	精神疾患とその治療	精神医学 I 精神医学 II 精神薬理学	精神医学1 精神医学2 精神医学診断1 精神医学診断2	
	23	関係行政論			履修不要

注 「○科目以上」とは、「必要な科目」欄に対応する科目の数のこと

例 < II > 7-13の科目から、4科目以上

→ ○: 認知心理学、学習の心理学、人格心理学、幼児・児童心理学(7, 8, 9, 12の4科目を充足する)

×: 認知心理学、感覚・知覚心理学、学習の心理学、思考・言語の心理学(7, 8の2科目しか充足し)